

自動車技術会昭和31年度総会及び春季大会

昭和31年度春季大会が4月23, 24, 25日の3日間において開催された。

〔第1日〕4月23日 9:00より山葉ホール（銀座）において開催した。

1. 映画16mmシネマスコープにより「上高地」を鑑賞した（大沢商会提供）
2. 総会 本人出席123名、委任状1,437名で総会成立し、楠本会長外遊のため吉城常任理事議長となり、下記の議事を行った。

- ① 昭和30年度事業報告の件
- ② 昭和30年度決算報告の件
- ③ 昭和31年度予算の件

- ④ 新評議員選挙結果確認の件

- ⑤ 新役員選挙結果確認の件

以上原案通り異議なく承認された（当誌178～180頁参照のこと）

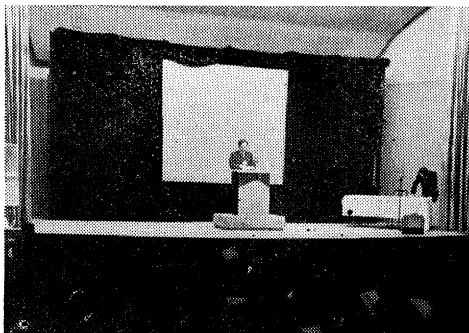
3. 第6回自動車技術会賞授賞式



総会会場入口

渡部寅次郎委員長の審査経過報告があり、下記の会員に賞状、記念品、特別バッジ及び賞金が贈られた。

- ◎ 山田嘉昭君（東大生研）
「金属薄板の試験法に関する研究」（論文）
- ◎ 平林貞治君（トヨタ）
「自動車用歯車その他の熱処理技術の改善」
- ◎ 篠崎二郎君（日産）
「試作カムシャフトの製作並びにマスターカムシャフト製作法の改善」



議長の仕事報告

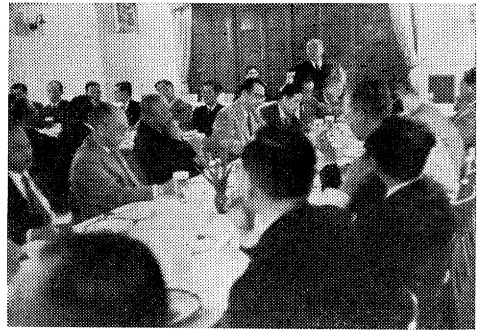
- ◎ 今村次郎君（東京都交通局）
「国産バスの使用技術の向上とその性能改善に対する寄与」

- ◎ 野寺哲二郎君（新日本観光）
「国産バスの使用技術の向上とその性能改善に対する寄与」

4. 学術講演会 第1会場山葉ホール、第2会場工業技術院計量検定所講習室（午後のみ）に行き、第1会場約100名、第2会場約70名参加した。（講演題目及び講演者氏名は本誌178頁に示す）

5. ビヤアーベント 18:00より日本クラブにおいて開催し、60名出席者があり、自己紹介や先輩諸氏のテーブルスピーチ等和気あいあいの内に20:00解散した。

〔第2日〕4月24日 前日と同様山葉ホールにて、自動車ショウ関係の学術講演会及び映画を行った。



ビヤアーベント会場

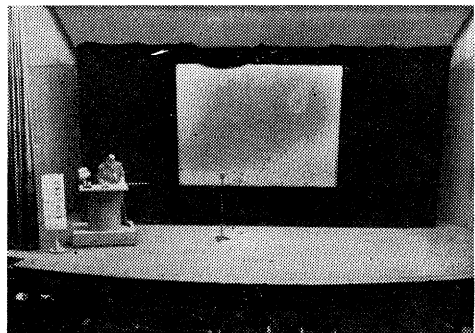
1. 映画 10:00～12:55

「白い馬」及び「恐怖の報酬」を鑑賞した。参加者は約200名であった。

2. 自動車ショウ学術講演会 13:30～15:45

小林明氏の開会の挨拶の後、幻灯使用により下記の3講演が行われ約200名の参加者があった。

- ① 安定性・操縦性における2,3の問題点………近藤政市（東京工大）
- ② トルクコンバータと流体継手について………石原智男（東大生研）
- ③ 板材加工の諸問題………山田嘉昭（ ）



学術講演会場



(写真向って左より山田嘉昭, 平林貞治, 篠崎二郎, 今村次郎, 野寺哲二郎の各氏)

賞 状

1. 自動車用歯車その他の熱処理技術の改善

トヨタ自動車工業株式会社
監査改良室 主査 平林貞治君

右は頑記会社においてその設立以来材料試験鍛造品なかならず歯車の熱処理各部門の製造技術を逐次担当し創業時代特に戦時下において、困難を極めたる自動車各部の耐久性に対する要望に於て永年に亘る熱心なる実践的研究と職場人の育成に努め、現に同社において実施中の特許回転焼入方法を結実せしめる等優秀なる国産自動車の生産実現への基盤を確立せしめる上に少なからぬ功績を挙げた。

本会は審査の結果その国産自動車の進歩発展に寄与せる功績顕著なるを認め第6回自動車技術会賞を授与する。

昭和31年4月23日

社団法人自動車技術会 会長 楠木直道
自動車技術会賞審査委員会委員長 渡部貢次郎

賞 状

1. 金属薄板の試験法に関する研究(論文)

東京大学生産技術研究所
東京大学 助教授 山田嘉昭君

右は昭和23年より28年にわたり自動車技術会鋼板技術委員会委員として鋼板の成形性試験法に関する研究を担当し、試験装置の試作研究並びにそれによる結果の比較検討をなしたが、本論文において特に液圧試験法の意義と適用性について論じこの方法が大きな歪範囲まで完全に近い応力-歪曲線を求め得ること、又材料加工硬化特性を圧力と頂部曲率半径の積と歪との関係から知り得ること、又異方性に関する或程度の知識が直接に得られること、又試験値が板の厚さや試験条件に左右されることが少く且つ試験値を無次元量で表示し得る実利的利のあること等を精細なる実験研究と在来の方程式を拡張したる著者の応力-歪関係式等をもととして、理論的数値的に検証したもので板材特に自動車用高級仕上鋼板の加工業に對し貴重なる資料を提示したものである。

本会は審査の結果その国産自動車の進歩発展に寄与せる功績顕著なるを認め第6回自動車技術会賞を授与する。

昭和31年4月23日

社団法人自動車技術会 会長 楠木直道
自動車技術会賞審査委員会委員長 渡部貢次郎

賞 状

1. 国産バスの使用技術の向上とその性能改善に対する寄与

東京都交通局自動車車輛工場長 今村次郎君

右は昭和2年東京市電気局自動車課に入局以来乗合自動車の整備ならびに車体設計に従事し、特に戦時中における代用燃料車から終戦直後における燃料潤滑油等の悪条件の下にこれに適する車種の選択研究を経て現在におけるディーゼル自動車を主とする転換に至るまで各車種について精細なる調査研究をなし著しい業績を挙げ、又特に終戦直後の輸送混乱期に親子バスを考案し、これを運行させトレーラーバスの先駆者をなし、ついでモノコックバスの設計に協力しこれを採用し大型バスによる旅客輸送の先鞭をつけ、昭和25年以来日本乗合自動車協会技術委員会設立者の1人としてバス車体の整備保安等の研究をなしてバス界を指導する等各種の特異性を有する国の交通事情に即してバス性能の改善に寄与し現下におけるバス隆盛の一基盤を作った。

本会は審査の結果その国産自動車の進歩発展に寄与せる功績顕著なるを認め第6回自動車技術会賞を授与する。

昭和31年4月23日

社団法人自動車技術会 会長 楠木直道
自動車技術会賞審査委員会委員長 渡部貢次郎

賞 状

1. 試作カムシャフトの製作並びにマスターカムシャフト製作法の改善

日産自動車株式会社横浜工場
施設部工具製作課長 篠崎二郎君

右は頑記会社において従来輸入にまっていた工作機械の精密部品の内産計画に参加していたが、特に磨損の多いマスタカム軸について輸入不自由なる時代に遭遇し、本格的な準備のもとに鋭意その製作研究を促進することの必要を痛感し、昭和24年以来数々に亘って努力の結果試作カムシャフトはその精度が輸入品にまったく匹敵し、且つその納期が従来品の数分の1に短縮することによりエンジン設計上において適切なカムシャフトプロフィールの変更が容易となり生産エンジンの性能向上に寄与するの功績を挙げた。又更にこの試作モデルカム軸を利用して做研磨装置により生産用のマスタカムシャフトを製作することにより精度の高いカム軸を短日時に量産し得ることに成功し国内生産技術の向上に資した。

本会は審査の結果その国産自動車の進歩発展に寄与せる功績顕著なるを認め第6回自動車技術会賞を授与する。

昭和31年4月23日

社団法人自動車技術会 会長 楠木直道
自動車技術会賞審査委員会委員長 渡部貢次郎

賞 状

1. 国産バスの使用技術の向上とその性能改善に対する寄与

新日本観光株式会社

取締役兼技術部長 野寺哲二郎君

右は大正13年東京乗合自動車株式会社に入社以来バス技術界に入り、わが国バス業の黎明期において車種車体の改良及び整備、保安管理、運転教育に尽力し、昭和24年以来日本乗合自動車協会技術委員会設立者の一員として、運輸省当局指導のもとに全国的にバス技術の交通をはかり、更にバス車体部品規格化合同専門委員会委員長となり車種の改良要望を製作者に示して車体製作の合理化を試み、ボンネット型バス車体の標準仕様、バス各部の規格統一、換気装置その他居住性に関して積極的研究を進め豪華バスの先鞭をつける等各種の特異性を有する国の交通事情に即して使用者側の立場から適切な技術的向上改善に寄与し現下におけるバス隆盛時代を招来せる一基盤を作った。

本会は審査の結果その国産自動車の進歩発展に寄与せる功績顕著なるを認め第6回自動車技術会賞を授与する。

昭和31年4月23日

社団法人自動車技術会 会長 楠木直道
自動車技術会賞審査委員会委員長 渡部貢次郎